



生物多様性保全を促進する

地方発の環境金融

report

環境対応型金融商品の提供 — 滋賀銀行 —

金融業界初の生物多様性格付を導入

風光明媚な近畿の水郷、琵琶湖。そのほとりに本店を構える「滋賀銀行」は、豊かな自然を享受する立場から、環境保全や地域社会の持続的な発展に貢献する「環境経営」を実践している。

「お金の流れで地球環境を守る」をキーワードに、金融機関ならではのCSR活動を展開。取り組みの柱となる環境対応型金融商品の運用を92年から始めている。地球温暖化防止や省エネルギー住宅などのサポートに加え、03年以降は生物多様性関連の商品提供に力を注ぐ。小学校でのビオトープづくりに助成する「エコプラス定期」、太陽光発電システムの導入を支援しながら、琵琶湖の固有種・ニゴロブナの放流事業に資金を拠出する「カーボンニュートラルローン 未来よし」といったサービスだ。

いずれの商品も年々実績を伸ばしていることから、同行ではさらなる生物多様性保全の普及・啓発活動が必要と考える。そこで、独自開発の評価指標にもとづく「生物多様性格付」を、全国の金融機関に先駆けて09年11月に新設。経営方



琵琶湖岸から徒歩数分の研修センター。太陽光発電、壁面緑化、省エネの空調設備など、滋賀県内の企業による様々な環境技術を取り入れ、2009年2月に完成

環境負荷を軽減する取り組みの一環として「エコメール」を導入。開封テープと宛名ラベルを貼るだけの簡易包装で、コストダウンも実現





「エコプラス定期」による拠出金を小学校でのビオトープづくりに活用。子どもたちに環境学習の場を提供し、生物多様性の大切さを伝える。「エコプラス定期」は個人向けの定期預金で、取り扱い金額は2003年の導入時から約9.2倍まで膨らんでいる(2009年12月末実績)

「滋賀銀行」問い合わせ先

総合企画部CSR室
〒520-8686 滋賀県大津市浜町1番38号
TEL:077-521-2207
<http://www.shigagin.com/>



2010年1月、草津市の鳥丸半島で行われたヨシ刈り。滋賀銀行をはじめ、賛同企業4社も加わり約400名の環境ボランティアが参加。ヨシ刈りは琵琶湖の水質維持に欠かせない作業である

針や活動の実施状況など、生物多様性保全への取り組みに関する8項目を100点満点で採点し、一定以上の評価を得た企業には融資金利を0・1%優遇する。評価項目は、取引先企業が取り組みやすい内容で、「お客様に生物多様性の大切さを知っていただき、企業活動へ取り入れる際の道しるべになれば」と、CSR室長の西堀武氏は話す。

また同行では、「生物多様性格付」の前身となる「PLB(格付)」を05年12月より導入している。こちらも独自に策定した環境保全に関する15項目を設定。温室効果ガス排出削減をはじめ、6つの取り組みに融資する「しがぎん琵琶湖原則支援資金」に組み入れており、今回の「生物多様性格付」との併用で最大0・6%の金利優遇を可能とした。格付の採点は専門機関ではなく、顧客と身近に接する行員が行う。

さらに本業と並行して、湖岸のヨシ刈りやニゴロブナの放流など、役職員による環境ボランティアの体験も地球環境問題を考えるうえでの大切な活動となっている。「グローバルな視点で環境を考え、ローカルな活動で地域へ貢献する。生物多様性格付にもこのような考えが基盤にある」と西堀氏。

琵琶湖を擁する金融機関として、役職員一人ひとりの環境に対する責任感や身近な自然を守るあたたかな配慮が、「環境経営」を持続させる原動力。その足元を重視した活動は、地元企業や県民からの支持を集めるとともに、金融業界においては先進的な取り組みとして注目されている。

(文責・CEL編集室)

(※) Principles for Lake Biwa



環境省が創設した「エコファースト制度」において「環境保全に関する取り組みを約束する企業」として2008年7月、金融機関初の認定を受けた



役職員が刈り取った琵琶湖岸のヨシで紙を漉き、名刺に活用。環境ボランティアの体験をビジネスの場に生かしているという



生物多様性格付の開発経緯など、滋賀銀行のCSR活動について語るCSR室長の西堀 武氏(左)と、広報室長の四方清文氏